



今回参加したのは、フットボールクラブから石井亮輝さん(経営社会学科4年)、大畑友人さん(同4年)、中村賢吾さん(同4年)、女子バレーボール部から金子礼奈さん(マス・コミュニケーション学科4年)、新田真雪さん(こどもコミュニケーション学科3年)、菅美咲さん(同2年)でした。



謎に満ちた 【カレーの会】 に迫る

6月8日(木) 11時20分から学生食堂「江戸屋」で【学長のカレータイム 3名と女子バレーボール部の3名、計6名が参加した。(取材:池谷明日香・増田朱音 文:増田朱音)】(以下カレータイム)が行われ、

強化指定部であるフットボールクラブ

6月から月2回、年12回を目安に行われている。カレーを食べながら、学長は学生から直接学校生活についての意見を聞いている。

なぜカレーかといえば、「みんなの好物だから。」参加学生は、学科長や学務課の推薦・エドポタでの応募などで決まる。参加費は無料。大盛り・小盛りの選択が可能。毎回6人ほど

「バレーボールで重要なポジションは何か?」など質問があるかわかりやすく説明していた。また「さらに上を目指して欲しい」と、激励されると学生たちは口々に「頑張ります」と頼もしく返答した。

「みんなの好物だから。」参加学生は、学科長や学務課の推薦・エドポタでの応募などで決まる。参加費は無料。大盛り・小盛りの選択が可能。毎回6人ほど

「みんなの好物だから。」参加学生は、学科長や学務課の推薦・エドポタでの応募などで決まる。参加費は無料。大盛り・小盛りの選択が可能。毎回6人ほど

「みんなの好物だから。」参加学生は、学科長や学務課の推薦・エドポタでの応募などで決まる。参加費は無料。大盛り・小盛りの選択が可能。毎回6人ほど

参加した学生に感想を聞く、「カレータイムがあるのは知らなかった。今日は学長の人柄を知ることができて良かった」「学長と話す機会はなかなかないので、これからも続けてほしい」と話した。

「部活の活動について知ってもらえたらいいな」と好評であった。学長は「学生と交流することができて良かった。学生の皆さんには、4年間学生生活を楽しまながら努力して過ごしてほしい。そのために、カレータイムでは学生の皆さんの率直な意見を聞きたいと思っただけで気軽に参加して欲しい」と話した。

【江戸屋カレーの秘密】




江戸屋のカレーを作っているのは、チーフの丸山智秋さんだ。丸山さんは朝7時から一人で2時間かけて40~50人前のカレーを毎日作っている。具材は、豚肉・玉ねぎ・にんじん・セロリなど。大学生に必要な栄養バランスを考慮しながら決めている。

味の秘訣はチャツネ。野菜や果物に香辛料を加えて煮込んだり、漬けたりして作るペースト状のインドの調味料だ。これで、風味をプラス。だれの口にもあい、しかもスパイシーで本格的な味わいもあるカレーのできあがり。間口の広さとこだわりが、絶妙なバランスを保っている。だから、毎日食べてもおいしいのだろう。

でも、レシピはともかく、「カレーを美味しく作るには愛情が一番重要」と丸山さん。丸山さんや江戸屋の皆さんの愛情がたっぷりこもったカレー。味わいながら食べよう。